

(福)特別区社会福祉事業団

広報誌

SEED

9月
号

特集

シン・事業団





PROFILE
理事長 **鈴木 勝**
すずき まさる

1948年3月29日生
目黒区副区長 3期
目黒区社会福祉事業団 理事長

一方で、世の中の様々な変化によって、利用者の方の生活課題は複雑・多様化しています。事業団を取り巻く状況は、時代とともに常に変化しており、生活に困窮する人々も数多くおります。

特別区社会福祉事業団は、厚生関係施設（更生施設、宿所提供施設、宿泊所）の指定管理等、自立支援センター・母子生活支援施設の受託・設置・運営、区からの生活自立支援事業や地域生活安定促進事業の受託など幅広い事業を担っています。

巨大都市東京での固有な課題を抱えながら、それに対応すべく、専門的な見地から利用者の方の生活を支えています。

令和6年5月から理事長に就任いたしました鈴木勝です。23区特別区の福祉の役割として、当事業団の存在意義は、非常に大きなものがあります。

巨大都市東京での

事業団の役割とは？

支援を事業団という

“**チーム**”として提供していく。

まずはじめの一步、それから次の一步、また一歩、前進して行くことが喜びです。そして、職員、利用者とともに笑顔を交わせる、そうした事業団を目指していければと思っています。

そして、特別区の福祉の充実に精一杯力を注いでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

「自分を生かす」「自分らしく生きる」これは誰もが目指すところです。自分を生かし、自分らしく生きるためにはどうしていくのか。私たちは、利用者の方と寄り添いながら、その答えを見つけて努力をしていくことが必要ではないでしょうか。

また、利用者の課題解決は、事業団だけで完結するものではありません。特別区人事・厚生事務組合や特別区と連携・協力をさらに深めながら、充実した支援を事業団というチームとして提供し、負託に添えていく必要があります。福祉の実現は、こうした連携があつてこそ、効果が発揮されていきます。

私たちは、利用者が抱える複雑な生活課題に、柔軟に対応すべく、職員の専門的な知識やこれまで培ってきた経験を生かし、支援の力を更に高めていく必要があります。

P.3 巻頭 **新**理事長 挨拶

P.4 **新**規取組

も〜っと知りたい！

連載企画

救護転換の取組 Vol.1

P.6 **新**規事業

新宿生活さぽーとセンター **さんぽっと**

P.8 **新**塩崎荘

アウトリーチの取り組み

P.11 **川上散歩。**

・事業団

も～っと知りたい！ 救護転換の

取組 Vol.1



ウサギ

現在、更生施設の利用者層は多様化の一途を辿っており、支援者にはより専門性の高いスキルが求められている。そのような現状の中、令和3年4月16日の特別区区長会で更生施設の**通過型救護施設への転換**が了承され、更生施設を取り巻く状況への対応が促進されることとなった。こうした背景のもとで、私たち事業団職員は「今何をすべきなのか」、その答えを探し求め法人本部・担当課長に直撃インタビューを行った。



ウサギ

近年、厚生関係施設再編整備計画の策定や特別区区長会で更生施設の通過型救護施設への転換が了承されるなど、更生施設を取り巻く状況への対応は加速しているように思われます。事業団として、この現状をどのように捉え、どのような対応をしていこうと考えているのでしょうか？



課長

社会環境が大きく変わり、入所者層やそのニーズも多様化してきたことは、これまで皆さんも支援業務を通じて実感していると思います。加えて、23区には救護施設が設置されていません。本来であれば救護施設で支援を受けるべき方々の入所を、長く更生施設が受け皿となって支援してきました。

しかしながら、救護施設対象の方々を更生施設の運営環境で支援させていただくのは、利用者さん、施設側双方にとって困難が生じているのが現状です。今回の救護施設転換の動きは、適切な施設設備や職員配置数の確保など環境整備を行う意味では、現状の運営環境では適切な支援を受けきれない利用者さんにとっての利益向上につながると捉えています。当法人としては、これまで積み重ねてきた支援という財産と新たな能力を研鑽し、救護施設転換への対応に向け取り組んでいかなければなりません。そのためにも、法人職員一人ひとりのより大きな関心と協力が不可欠です。



ウサギ

私自身“救護施設”と聞くと、「更生施設の入所者よりもADLが低い方」や「居宅等の地域生活を送ることが困難な人」が入所する施設といったイメージがあります。そのため、通過型というワードに少しギャップを感じてしまいます。通過型救護施設での支援はどのようなものなのでしょうか？

更生施設に救護施設対象の方が入所してきているというのは長く言われていますね。かといって目の前の利用者さんをそのままにすることはできません。更生施設を含めた保護施設は、最後のセーフティーネットという機能を果たす必要があります。更生施設には、就労を目指す人、デイケアに行く人、老人ホーム等への入所待機の人など、様々な人が入所しています。そのような人たち全員が同じような生活を送っていくことは画一的すぎますし、ましてや施設によって個室・多床部屋など設備上の問題で、施設によっては利用者ニーズにお応えするには限界があります。一方で、これまでの支援を振り返ると私たちは、就労支援やデイケア通院などの日中活動先につなげる幅広い支援はスキルとして蓄積してきています。通過型救護においてやることは同じ。つまり、目の前の利用者さんにきちんと向き合うことが大切なんです。

そのため、まずは利用者支援にフォーカスを絞り、救護施設運営を任されても、更生施設の支援経験と救護施設派遣で習得した新たな支援能力で、大都市東京における通過型救護施設の支援を十分担えるようになること、それを23区に自信を持ってPRできるようになることが重要だと考えています。



ウサギ

更生施設と比較すると、やはり救護施設には“介護”のイメージがあります。更生施設で培った相談援助の技術・経験が活きる場面はあると思いますが、介護への懸念は払拭できていない状況を感じています。特に介護経験の浅い職員への理解が必要に思えますが、救護転換に向けてどのような取り組みをしているのでしょうか？



課長

【救護派遣調整チーム】

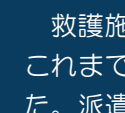


救護施設転換に向けて、庶務を担当しているチーム。他法人への職員の派遣や、救護施設の見学先の調整を中心に取り組んでいる。また、法人内での「救護派遣報告会」の実施も行っている。



ウサギ

なるほど…救護転換に向け、他法人にご協力いただき救護施設への派遣事業も行っていますが、こうした取り組みについてはいかがでしょう？



ウサギ

救護施設派遣事業は令和4年度から始まり、これまで述べ17名の職員さんが参加されました。派遣に赴かれた皆さんは、慣れない土地での研修で苦労もあったかと思います。しかし、それ以上に新たな支援技術の習得や他法人職員との交流による支援に対する意識改革等、何よりご自身の成長を実感されているのではないのでしょうか。

そのような貴重な経験は、ぜひ遠慮せずに法人内で積極的に発信していただければと思います。報告会のようなかきこまった場所以外でも、職場の隣に座っている身近な同僚や同期の職員など、気軽に話せる相手でも良いと思います。救護派遣で成長された皆さんの姿は、そのまま法人の成長に寄与していると信じています！



課長



課長



他法人への救護施設派遣に参加した職員。それぞれの経験を胸に、救護化へ向けて積極的に取り組んでいる。

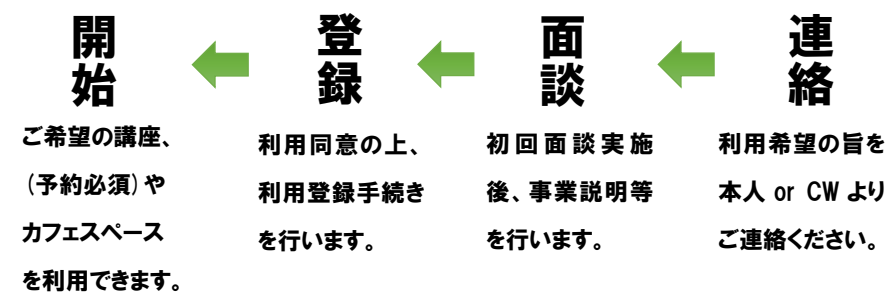
インタビューを終えて

更生施設では、様々な生活課題を抱える入所者に対して、衣食住の提供を中心に、専門職や医療機関と連携し、居宅や他法他施策の施設への地域移行支援、就労支援、保護施設通所事業を活用した支援など幅広く展開してきた。

昨今、厚生関係事業を取り巻く環境は日々変化している。私たちは利用者の安心・安全の確保を徹底するとともに、これまでの実績や相談援助業務で培った専門性をより一層高め、特別区人事・厚生事務組合や特別区と連携しながら厚生関係事業を推進し、その負託に堪えていかなければならないことを再確認した。当法人が現在注力している救護施設への派遣はその取り組みのひとつであり、一人でも多くの法人職員に興味関心を持っていただきたいと強く感じた。

次号へ続く……

■利用の流れ



当法人の強みである“相談支援力”を活かして、福祉事務所と連携をしていきたいと考えております。また、「さんぽっと」の由来である「Sunny spot support」(日の当たる場所に皆が集まるイメージと支援を組み合わせた表現)が表現できるように、明るく楽しく運営していきたいと思っております。見学等はいつでも大歓迎です。ご連絡お待ちしております。

プログラム紹介 BEST4



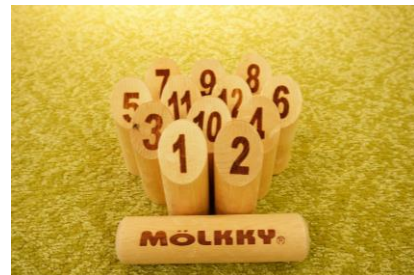
No.1 絵画教室
講師をお呼びして実施しているとのこと。壁には作品が飾られていた。



No.2 麻雀サロン
人気のプログラムのひとつ。2卓用意があるため、最大8名で参加可能。



No.3 卓球
毎回白熱した試合が繰り広げられている。意外にもダブルスが好評。



No.4 モルック
棒を投げピンを倒す為、老若男女楽しめるスポーツ。戦略性もあり、好評。



事業所概要

所在地:新宿区西早稲田 3-11-6
コアハイム西早稲田 101 号室
連絡: ☎ 03-5656-7311
✉ sunpot@dune.ocn.ne.jp
職員配置:常勤3名 非常勤2名



「SBS事業」では、現在、小学校1～6年生までの10名が利用の登録をしています。地域柄、外国にルーツを持つ子どもが多いです。特に学習支援のニーズが高く、学校の宿題等を一緒に取り組むことで、学習の定着を図っています。

■開所から半年経過した、現在の様子は？
開所当初、特に4月は登録のある利用者さんとの初顔合わせや面談、講座開設の準備に終始しました。5・6月頃から少しずつ利用者が増加傾向にあります。毎月20日を目標に次月のプログラムスケジュールを作成しチラシを職員で手分けして、ポスティングをしています。全部で、80世帯程度あり、新宿全域が対象地域なので、夏場は厳しい一面もあります。ですが、おかげさまで7月は延べ110名の利用がありました。



開所式の様子

■開所式の様子(文章：早瀬)
今年度の4月1日に行われた開所式に、参加させていただいた。当日は、当法人の理事長を始めとした、事務局長・課長・所長等が出席された。理事長挨拶から始まり、川本施設長の本事業に対する今後の展望・事業展開について話があった。本事業は、地域で生活されている保護受給者に対して、日中活動場所や日常生活・社会生活自立の支援、また、居場所の提供・交流を提供する場として、活用されることを目的としている。そのためには委託元である新宿区のニーズを読み取り支援を展開していくことが必要不可欠であると感じた。本事業利用者に対し、寄り添いながら、より近い距離からの支援体制に期待していきたいと思う。



施設長 川本 知彰

出身地:生まれは鳥取県
育ち:埼玉県
入職のきっかけ:人間観察が趣味で人と関わることに興味があったため
好きなこと:身体を動かすこと

■施設長 挨拶

当施設は、事業団初の拠点事務所として運営しております。

②社会参加(ボランティア) ③相談・援助を行っています。

事業内容としては、「さぽーとセンター事業」と「SBS事業」(SBSとは、新宿プラザーズ&シスターズの略の2つを中心に行っています。

「SBS事業」の利用対象者は、新宿区の生活保護世帯の義務教育就学中の児童・生徒及び保護者です。主に①学習の習慣づけ②居場所の提供を目的としています。月曜から土曜の14時～19時をSBSの時間帯としており、

「さぽーとセンター事業」の利用対象者は、新宿区福祉事務所の生活保護受給者です。主に①定期的なプログラム参加により、生活リズムを整えたい方②他者と関わる機会を設けたい方③自宅以外での居場所を見つけたい方を対象とし、日常生活・社会生活自立の為に支援を目的としています。サービス内容として、講座を開催しており、平日の午前・午後と様々なプログラム(体操・麻雀サロン・絵画教室等)を実施しています。また、講座以外にも①フリースペースの提供

開所してから、半年ほどですが、利用者の様々なニーズに合わせた支援を提供できるように日々奮闘しております。

シン・シオザキソウ 新塩崎荘

アウトリーチの取り組み



当法人では、主に更生施設を退所された方を対象に「保護施設通所事業」（以下、通所事業）を実施しています。施設ごとに独自の取り組みを行っていますが、本誌では新塩崎荘をピックアップ。利用者の居宅訪問に力を入れており、アウトリーチの形を試みています。今回は居宅訪問に同行し、取材させていただきました。

§1 通所事業とは？

主に更生施設の退所者が自立した生活を送れるよう支援する事業です。退所後のアフターフォローが中心となっており、利用者に施設に来てもらう「通所」、職員が居宅へ出向く「訪問」を一体的に行っています。入所、退所、通所とシームレスに支援を提供できる点が大きな強みです。地域生活の安定継続や自立支援に関して施設機能を有効に活用しています。生活相談だけでなく、行事等を通しての社会参加の場の提供にも取り組んでいます。

§2 ご利用方法

本誌裏表紙に「施設利用・申込について」と掲載しておりますが、こちらは更生施設入所の手順です。通所事業の利用申し込みについては、各施設の通所事業担当の職員へお問い合わせください。更生施設に入所している方が退所後に通所事業を利用する場合は、現担当職員へのお問い合わせで結構です。尚、施設入所者以外の方でも「地域枠」として利

用可能です。居宅保護で通所事業による支援が適当と思われる方がいらっしやいましたらお気軽にご相談ください。

§3 アウトリーチに力を入れ始めた理由

「コロナ禍において、利用者の方と直接顔を合わせることが減り、電話連絡による安否確認が中心となってしまっていた時期がありました。その間、通所・訪問ともに実施できず、特に“通所してもらおう”という習慣がない状態が続きました。元々、新塩崎荘では訪問より通所がメインだったこともあり、利用者の方との距離が遠くなってしまうことも大きな課題でした。そこで、「通所してもらおうには、こちらから訪問しよう」「こちらの話を聞いていただくには、まず話を聞こう」という発想で「アウトリーチ＝居宅訪問」に力を入れ始めました。

通所サービスの例

- 生活相談・・・生活の困りごとなどをサポート
- 健康相談・・・健康面での助言（看護師対応可）
- 栄養相談・・・食生活の助言（栄養士対応可）
- 金銭管理・・・通帳等の預かり
- 食事・・・施設の給食サービス（自己負担あり）
- 入浴・・・施設の入浴サービス（自己負担あり）
- 行事・・・所内外でのイベント等の提供
- 就労支援・・・就労に関する助言等
- 安否確認・・・電話または居宅訪問にて実施

アウトリーチに

密着！



利用者インタビュー

居宅訪問を終え、通所事業についてAさんにインタビューを行いました！

——Q1. 通所事業はいかがですか？

元々新塩崎荘に入所していて、とてもお世話になりました。その感謝の気持ちもあるので、行事など声がかれば参加したいなと思っています。

——Q2. 通所事業で印象に残っていることを教えてください。

行事でスカイツリーへ行ったことですね。外から見たことはあったけど、展望台まで登ったことはなかったので。一人では行かないから、いい機会になりました（笑）

——Q3. 生活で気を付けていることはありますか？

やっぱり無理をしないことですね。腰が悪いので、変な姿勢にならないように、とか寝っ転がって変な立ち方しないように……とか。

——Q4. 施設でお話されているときよりもリラックスしているように見えますが、居宅訪問についてはいかがですか？

特別意識したことはないけど、施設は他の人もいたりするので、気が楽な部分はあるかもしれないですね。



プレイ中の A さん。ラケットを握るのは久々で、なんと 38 年ぶりとのこと……！他の利用者の方や職員と打ち合いました。



出発時の様子。怪しげな勧誘をしているようにしか見えませんが、交通経路の確認をしています。

川上散歩。

01

ギャザリア前 広場

今回は**シン・広報委員**メンバーの川上さんに木場駅から**新塩崎荘**までのルートでおすすめスポットを紹介していただきます！

四季折々の花を楽しめるガーデンコートや、木立と壁泉から成るウェストスクエアなど、下町を感じられる憩いの場。木陰やベンチも多くあり、ランチや休憩にいかがでしょうか。

02

汐浜運河／汐浜橋

遊歩道が整備された汐浜運河。春には河津桜やハクモクレンが一面を彩ります。屋形船の乗場もあり、四季を問わず景色を楽しむことができます。汐浜橋から一望してみても…

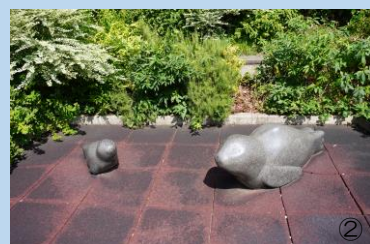
03

くりまめ君／バニラ君

歩道橋を下りるとやはり目に入るのは新塩崎荘に隣接する塩崎荘のミニチュアホースのくりまめ君と、ヤギのバニラ君。脱走のニュースで一躍有名になりました…今では事業団の象徴ともいえますね。



This road is an introduction from Kiba station to **Shin-shiozakisou**.



専門職との

連携



更生施設では多職種が連携し、それぞれの領域を活かした支援を行っています。通所事業においても同様です。今回の訪問では栄養士が同行しましたが、ケースによっては看護師が同行することもあります。このページでは、今回の訪問でAさんと関わった指導員と栄養士へのインタビューの模様をお届けします。

指導員編

※指導員とは、更生施設の相談支援を担当する職員です。

——通所事業のやりがいを教えてください

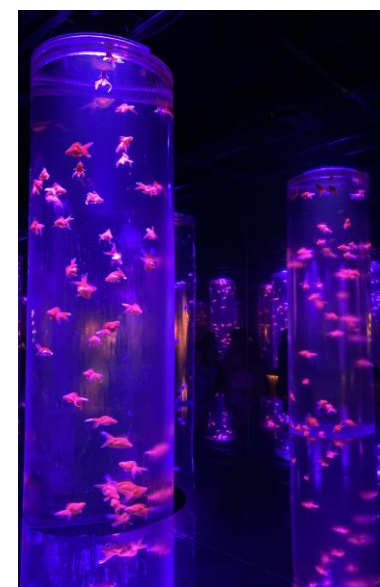
更生施設入所時より元気そうなる人を見ると嬉しくなります。施設生活の大変だったエピソードを聞けると、当時悩んでいたことを乗り越えた本人を目の当たりにできるので、なんとも感慨深い気持ちになります。ちなみに、通所事業利用者の平均年齢は61.5歳ですが、若者が詰め寄っていたアクリウム展が好評で驚きました。「年齢に捉われず、職員も楽しめる企画を！」を心に、頑張りたいです。

——今年度よりアウトリーチに力を入れ始めましたが、率直な感想を教えてください

正直、利用者さんが居宅訪問に好意的だったことに驚きました。コロナ禍は、電話連絡を中心に安否確認を行っていたので、久々の訪問は拒否されるのでは…と心配していましたが、快諾される方がほとんどでした。もしかしたら、顔が見えない中でも電話連絡で良好な関係を築けていたことが、スムーズな訪問へと繋がったのかもしれない。



栄養士編



通所行事のアクアリウム展。スマホを片手に写真を撮りながら鑑賞。

——今後の展望を教えてください

通所室を大改造したい！と、意気込んだものの、大量の割れたお皿や使えなくなった調理器具が発掘されたので、まずは片付けから始めています。将来的に、通所室を利用しない人も、自宅以外に「あなたの居場所がある」という安心感を持ってもらえる場所になればと考えています。

——アウトリーチの際に心がけていることはありますか？

利用者ごとに生活環境が違う点を意識しています。例えば、キッチンスペースやスーパーまでの距離など、住環境を把握した上での支援を行うようにしています。利用者が使える生活資源にはどういったものがあるかアンテナを張り、様々な生活シーンを想定してよりになる助言を行うように心がけています。

——専門職として特に注意している点(意識している点)を教えてください

訪問前の記録へ目を通し、その方の特徴づけるキーワードや健康管理に必要な検査データ、食事面で上手くいっていないと感じる発言や相談内容などを確認しています。ただ、記録から得た私の情報と実情がすべて一致している訳ではないので、先入観は持たないように気をつけています。

——今年度より居宅訪問チェックシートの活用を開始しました。こちらについてはいかがですか？

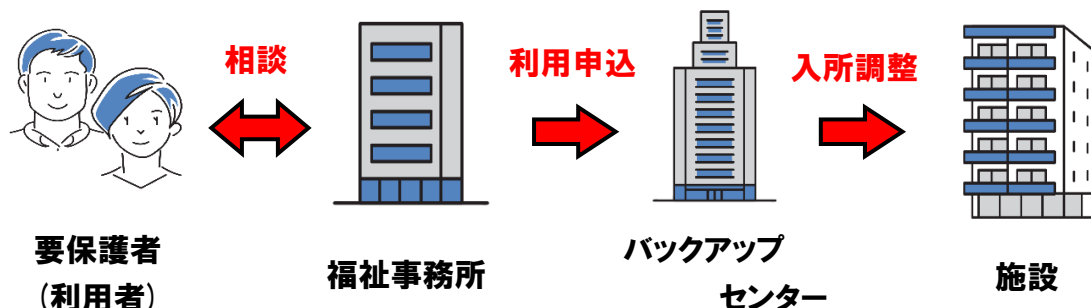
訪問後に『自分が何をみてきたのか、どんな事に注目していたのか』を整理し課題(ニーズ)を見つけるツールとしても使用しています。食生活と他の生活課題の関連も分かり易いので重宝しています。指導員が完成させた訪問チェックシートは施設内に留まらず、通所訪問事業状況報告書と一緒に福祉事務所へ送付されます。多職種による視点の違いを強みとした等施設の大きなセールスポイントだと思います。

居宅訪問チェックシート

居宅訪問チェックシート				
利用者の氏名				
訪問日	令和	年	月	日
訪問場所				
項目	課題	現場 (実地場所・補助員等)	状況・生活課題	
ADL	食事	有・無		
	排泄	有・無		
	入浴	有・無		
	更衣	有・無		
IADL	散歩	有・無		
	調理	有・無		
	洗濯	有・無		
	掃除	有・無		
病院	受診	有・無		
	服薬	有・無		
申し送り事項				

看護師が作成。ケアマネージャーや在宅医療の看護師が使用する書式を参考に、通所事業の居宅訪問に適した形に改良したもの。訪問前の聞き取り項目の具体化、訪問後の記録として活用している。

施設利用・申込について



福祉事務所のみなさま

更生施設（入所利用）

バックアップセンターへご連絡ください。
(03-5210-9035)

更生施設 通所事業

本誌8ページをご覧ください。ご不明点は
法人本部へお問い合わせください。
(03-6666-1046)

※その他 施設利用に関するお問い合わせ
(03-5210-9032)

医療機関等・支援関係者のみなさま

施設への入所は、福祉事務所からの依頼が必要です。
まずは担当のケースワーカーへご相談ください。
また、法人本部（03-6666-1046）まで
直接お問合せいただくことも可能です。

バックアップセンターとは？

施設の入退所の調整を行うところです。特別区人
事・厚生事務組合が運営しています。略して BUC
または B/C と表記することもあります。塩崎荘
はバックアップセンターの調整なしで入所可能
です。

事務局 清水のしょうもない話

小さい頃の話です。「台風一過/台風一家」のように
「度付きメガネ/ド突きメガネ」を勘違いしてしまし
た。なにか怖いことが起きるメガネなのだと漠然と
した不安を感じていました。視力が落ちた時、両親
はメガネの購入を勧めてくれましたが「ド突き(度付
き)は買わないから!!」と今思えば意味の分から
ないことを言っていた話を思い出したので、掲
載させていただきます。

編集後記

おかげさまで、広報誌「SEED」が創刊されて1年
が経ちました。各関係機関の方々からたくさんの良
い反響をいただいております。励みになっております。
今後も「SEED」をよろしく願いいたします！

【制作・編集担当】早瀬

本号の COVER MODEL

指導員 川上さん

今年度より広報誌発行委員会に加わりました。
7月中旬にカバーモデルの話があり、両親に報告
したところ、カメラが趣味である父から「俺が撮
ってやる」と一言。撮影当日は真夏日でしたが、
秋頃の発刊予定とのことで我慢して長袖を着用し
ました。ストロボなど本格的な機材を担いだ父の
姿を見て、知り合いに会わないかとヒヤヒヤ。た
だの汗なのか冷や汗なのか分かりませんでした。
が、モデル気分を少し味わうことができました。
余談になりますが、結膜炎で右目が全く開かず、
編集で大きくしてもらいました。違和感ないです
よね…